バーサーカーのお助け物語　第一章　魔法先生ネギま！編

teru

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バーサーカーのお助け物語　第一章　魔法先生ネギま！編

【Ｎコード】
Ｎ６０６２Ｙ

【作者名】
ｔｅｒｕ

【あらすじ】
坂本　明こと「バーサーカー」による、物語の主人公ｏｒヒロインｏｒサブキャラを助けていく、チート能力を乱用したかっただけの物語です。
物語によって文章量が極端に違う可能性が大ですが、まぁそこは勘弁してやってください。
なお、この物語は「オリ主最強＆チート」「原作ブレーカー」などの要素をふんだんに含んでおります。

もしそのようなものにアレルギーや嫌悪感をを感じたりするお方は
Ａｌｔ　＋　↑をお勧めいたします。

第一話　そして、彼は『ヒト』になった。

朝4時。俺はいつものように暗闇の中で目が覚める。目覚ましをかけているというわけじゃない。ただ、なんとなく。なんとなく目が覚めてしまう。

「…………………………おはよー」

まぁ、起きてしまった以上いつものとおりPCでなろうでも読んでいるか。

「起きるか」

とりゃあっと布団を蹴っ飛ばす。ドスッと音がした。たぶん辞書でも落ちたのだろう。電気をつけると、バチバチと目に見えるほど放電しているPCの上に載った辞書が見えた。次の瞬間。

ボンッ！

こうして。俺こと坂本　明はこの世を去ったのだった。

「ってさすがにこれはあっけなさすぎだろー」

と一人愚痴りながら列の中を歩いていく。死んだ後には閻魔大王にこれまでの人生を裁いてもらい、もしそれが良ければ次の人生に輪廻転生してもらえる。悪ければ地獄に落ちてその罪を償うと言うルールだ。と列を監視している人（？）に教えてもらった。死んだ後には幽霊となるとかいった奴は誰だ？今の俺は実体そのものなんだが。

歩き始めてからもう何時間たっただろうか。後１０人くらいで閻魔様とご対面ってやつだ。

さて。俺はどうなんだろうか。俺は生きているときに特にいいことをしたわけでもない。かといって悪いことなどもちろんやっていない。

いやまて。どこぞのカンダタとかいう盗賊は昔、蜘蛛を助けたというだけで地獄から脱出できそうだったのだ。俺にもなにかひとつくらいは良いところがあるだろう。うん。そうに違いない。

とプラス思考で自分をごまかしているともう目の前に閻魔様のいらっしゃるお部屋のドアの前だ。

一応失礼の無いように。と心の中で呟く。そしてドアをノックして。

「はい。どーぞー」

……………………？なぜに幼女ボイス？確か閻魔大王様って筋骨隆々の男の中の男って言ってたはず。きっと秘書さんか何かだろう。

ガチャっとドアを開け、

「失礼しまーす」

部屋の中に入ると。

「いらっしゃーい、お兄ちゃん！！」

幼女が閻魔大王様を足蹴にして楽しそうに俺を出迎えてくれた。

「……………」

バタンッ！

ついドアを閉じてしまった。

「…………………夢か。こんな夢を見るなんて俺も歩き疲れたもんだな」

「夢じゃないよぉ！」

バタンッ！

ようじょ　が　あらわれた！

あきら　は　どうする？

？たたかう　どうぐ

いれかえ　にげる

？はたく　さけぶ

おこる　ねむる

あきら　は　はたこうとした！

しかし　ようじょ　をはたくのは　はんざいだ！（？）

あきら　は　どうする？

たたかう　どうぐ
いれかえ？にげる

あきら　は　にげだした！

しかし　ようじょ　はさきまわりした！
あきら　は　どうする？

たたかう？どうぐ
いれかえ　にげる

あきら　は　なにももっていない！

ようじょのなきだす！

「ちょっとでいいから、わたしのお話聞いてよお兄ちゃん！」

あきら　は　くっぷくした！

つーかあきらめるの早いな俺。

「はいはい。話だけなら聞いてあげるよ」

「ありがとー！じゃあさっきのお部屋でお話しよっ！」

こうして俺は幼女に捕まったのだった。

「まずは自己紹介からかな？　わたしはね、マアトっていうんだよ！　で、これは閻魔大王っていうの！」

「ああ。俺は坂本　明だ。とりあえず、お前はなにもん？」

またこいつは閻魔大王様らしき人を足蹴にしている。

もうツッコむ気力すらなくなってきた…………………………

「マアトのこと？　これでもいちおー女神さまだよ？　閻魔大王なんかよりえらいんだから！

マアトは、真理とか、調和とか秩序の女神さまっ！」

ハイ？　この幼女はなにやらよくわからないことを言ってるなぁ。ＨＡＨＡＨＡＨＡ。

「えっと、もう一回言ってくれるかな？　ちょっと聞きのがしちゃって」

「だーかーらー！　マアトは真理とか、調和とか秩序の女神さまだって！」

「嘘だっ！！！！！！　百歩譲って神様だとしても、こんなロリ神が調和や秩序、ましてや真理の神であるはずがない！！！　だれかー！！　当番弁護士を呼べーーーー！！！」

「あぁっ！お兄ちゃんが壊れた！？」

（青年沈静中……………………………………………）

結局、神様ぱわー（本人談）とかいうのを見せられて渋々ながらも納得した明君だったとさ。

「で、だ。どうして俺は死んだのにこんな場所に、しかもお前のようなロリ神と向かい合っているんだ？」

「それはね。かくかくしかじか～」

「あのな？世の中のことがすべてかくかくしかじかで済むわけないだろう？」

「しかたないなぁーじゃあちゃんと教えてあげるよー」

ノリ悪いなぁとか呟いてるのは無視だ。無視。

「まぁ、ぶっちゃけ暇だったからなんだよねー。――」

（幼女解説中…………………………………………………………）

「ほぅ。つまり、お前は『7つの物語の原作ブレイク』をしてこいというわけか」

つまり、どこぞのテンプレなSSと同じってことか。おもしろそうだ。無難に来世を歩むよりずっといい。もちろん地獄なんかよりもずっといい。

「そうだよー？なんか質問ある？」

「俺はその行く物語の世界とやらを選べるのか？」

もし選べるならそこそこ面白いんだが…………………………？

「ん～じゃあ、7個中1個は選んで良いよ。ほかにはある？」

一個だけか……………………………まぁいい。

「それをやってこっちに何かメリットはあるのか？」

「7個中のどれか好きな物語の世界に住まわせてあげる！ほかには

？」

！

つまり、うまくやれば俺の好きな物語の中に住むことができるということか！

「いや、それだけだな。」

「話が早くて助かるよ～」

「よく言われるよ」

「ん～………………お兄ちゃんをを壮一お兄ちゃんって呼んであげようか？」

だれだ？それ。

「まぁ、冗談は置いといて」

と物を横に置くしぐさをする幼女。…………………………これをそういう属性の人がみたら「萌えー！」とか叫ぶのかね？なんか忘れてるような………………………

「早速行ってもらうね！」

そうだ！こういうときには能力とかアイテムとかをもらうのがテンプレだった！

「そういえば。俺ってなんか能力とかアイテムとかもらえるの？」

「あー…………………………忘れてた。ごめんね？テヘッ♪」（舌を出す幼女）

……………………似合うと思ってやってるのか？あいにくこっちにはそういう属性はもってないから普通にウザイだけなんだが……………………

「じゃあ、なんかの能力とアイテムをあげるよ。ちなみに、基本的にここでもらったアイテムとかはどの世界にも持っていけるからね。」

「能力は？どっかの世界で鍛えた体をもう一度鍛えるとかめんどくさいんだが……………………」

「じゃあ能力とかも引き継げるようにしとくよ。でも、最初は普通の人間くらいの体からスタートね。あ、魔力とか、霊力とかそういう奴の才能はトップクラスってことにしとくよ。どうせならガンガン派手な魔法を使ってほしいからね～♪」

「ＯＫ。それで行こうじゃないか。」

「それで、能力とアイテムはなんにするの？ちなみに最初の世界はネギま！だよ？」

ネギまか………どんな能力でも戦えるっちゃあ、戦えるな。なら今後のことも考えつつ能力を選ぶか………たしか成長する能力とかあったような気がするんだが・・・・・・・？

「まだー？早くしないとこっちでランダムに選ぶよー？」

「もうちょっと待ってくれ！」

まず、俺が魔法の砲台になるとかごめんだから必然的に魔法剣士か魔法拳士になるしかないか。魔法の才能はあるなら近接格闘の底上げの能力とかがいいか。

…………………………………………………………………………！！

パーフェクトブラッドの「バーサーカー」が最適じゃないか！あれは成長する上に運動能力、五感の能力を上げるって代物だったっけ。すると、炎が弱点か……………………

「能力はパーフェクトブラッドの『バーサーカー』で頼むよ。アイテムはソニック・ザ・ヘッジホッグ3の『フレイムバリア』だ。水に入っても消えないようにしてね」

「りょーかい！じゃーいってらっしゃい！ちょっと痛いけど我慢してね！」

と声を聞くと俺の真上にハンマーが！？

「このハンマーで君を押しつぶしてネギまの世界に逝ってもらうの！」

アレ？『いく』の字おかしくないかな？

「逝ってらっしゃーい！」

その声と同時にハンマーが振り下ろされる。

こうして俺は

「バカ、てめぇふざけんじゃ」

異世界を巡る旅へと

プチン！

その第一歩（？）を踏み出したのだった。

今思うと。案外これは間違った選択でもなかったりしたのか？なんて思ったりするけど。

まぁそのときは結構真剣に危ないと思ってたりした俺だった。

第二話　明「腹減った………」

広い野原が延々と広がる場所があった。
音を立てるものはただ、風のみで。そよそよと心が落ち着くような光景が広がっていた。

「――――ぁぁ」

そう。この時までは。
空に突如生まれた黒い点。

「―――ぁぁぁ」

その点から小さな。小さな声が聞こえる。

「――ぁぁぁぁぁぁぁぁぁ」

その声はだんだんと大きくなっていく。その姿もだんだんと大きくなっていく。

「―ぁぁぁぁぁぁああああああ」

そして空の点が人の形をしたものだとわかるとき。

「うぁぁぁああああああああああああああ――バーサーカー開放！」

ドゴッ！

地面にクレーターができた。
これが明の異世界一日目の最初の出来事である。

１０分ほど悶絶していたであろうか。むくっと起きた明は開口一番。

「あんのロリ神！とっさに開放してなかったら死んでたわ！！」

まぁ、悪態をつきたくもなる。下が草原だったからこそいいものの、下がコンクリートだったらどんなに痛いか！
これ人が下敷きになってたらギャグキャラでもない限り死んでただろう。

一通り悪態をついた後。

「さて、と。とりあえず動きますかね」

こんなところにいても何の得にもならない。幸い、空に昇る太陽は高く、まだまだ日が暮れる気配は無い。
それよりも、食料をどうにかしないといけない。「バーサーカー」で強化された視界に生き物はまったく映っていない。
食料を探さねば、初めての異世界を餓死という情けない終わり方で終わらせてしまう。

「それだけは避けたいな〜」

まぁとりあえず今の太陽の方向に歩いていけば良いだろう。
明は歩き始めた。

「まーだーかー」

とてつもなく暗い声で唸りをあげる明。それもそのはず。もうこれで5日の間飲まず食わずで歩いているのだ。

「バーサーカー」の視界には町どころか未だに生き物すら映らない。草を食べようと思ったが一度食べたときには夜まで目を覚まさなかった。きっと毒草だろう。

毎日日が暮れて、歩き疲れるとその場にばったりと伏す。「バーサーカー」の効果で体温を維持していなかったら死んでしまっているだろうな。

つーかロリ神の奴、少しは食いもんがあるところに落とせばいいものを～～～

「いい加減に疲れたぞー何か食えるもんは無いかー」

とその時。「バーサーカー」の視界に草では無いものが映った。

「!?なんだ?」

草一辺倒の光景ではないものを見つけテンションが多少あがる明。

「町か?家か?この際小屋でもいいから人に会ってまともな飯にありつきたい………!」

しかし。世界は無常なようだ。

草ではない光景。それは、

ただの道であった。

あまりの落胆に頭が動かない。いや、体が動かないようだ。
いい加減に限界が来たようだ。

「俺、がんばったよな………？もう、ゴールしても良いよな………？」

そうつぶやくと、ぱったりと道に倒れてしまう明であった。

side　？？？

私はいつものように賞金首たちに狙われていた。しかし、いつもと違うのはそれが軍隊であったことだ。せめて、5～6人くらいだったら魔法でどうにでもできるが、私の魔力量はこの人数相手ではまだまだ足りない。逃げるしかないのだ。

草原の中の道をひた走る。追っ手は撒いてあるはずだが、いつここまでくるかわからない。幸い食料は十分にある。林の中や山の中に入れば安心できる。そんな時、

「痛ッ！」

何かに足をとられて転んでしまった。物をいくつか落としてしまったようだが今はそれどころではない。立とうと思うが足が腫れていて言うことを聞かない。
ちらと後ろを見ると軍隊が隊列を成してこちらに向かってくる。

「これまでか……」

私の人生はこれで幕を閉じるのだろう。観念して目を閉じる。すると。

「パンだぁぁぁぁぁぁぁああああ！！頂きます！！！」

人の叫び声が聞こえる。というかうるさい。何があったかと目を開けると、
ぼろぼろの格好をしている青年がパンを貪っていた。

side out

「痛ッ！」

腹の辺りに衝撃が走る。どうやら何かに蹴られたようで腹が少し痛む。
痛いなぁ………と思い、顔を上げてみると、
俺の目の前に夢にまで見たパンが転がっていた。

「パンだぁぁぁぁぁぁぁあああああ！！」

腹が極限まで減っている俺の前に転がっているパン。これ、食べて良いんだよね？

「頂きます！！！」

がぶりとパンにかじりつく。うまい！うまいぞ！！
昔、誰かが「空腹は最高のスパイス」とか言っていたがまさに最高のスパイスだ。

あっという間に食べ終わり、

「ご馳走様でした！！」

ふと横を見るとこちらを見てぽかんとしている少女。あ、もしやこのパンってこの子のものだったり？………；；

？後ろから喊声が聞こえるな………

！思い出したよ！この子エヴァだ！
確か吸血鬼ってことで賞金かけられてたんだっけ。

「あの人たちに追いかけられてるの？」

と、問いかけるとコクンとうなずくエヴァ。

「よーし。一飯の礼だ。あいつらは俺が蹴散らしてあげよう」

とはいうものの、今回が俺の初戦。いくら「バーサーカー」があるとはいえ油断はできないな。
先手必勝で特攻しかけますか！

と、軍隊の中へ全力疾走する明だった。

第二話　明「腹減った………」（後書き）

前回のあとがきでご挨拶しなくてすいません；；

ｔｅｒｕと申します。

今回は七つの異世界のうちの一つ目ですね。

主人公には魔力とか霊力とか体力とかいろいろつけてもらう予定なので、後半はオリ主チートの能力をガンガン使っていきたいなぁ……なんて考えてたり。

次回は戦闘シーンからですね。ちょっと緊張しますが；；

それではここまで読んでいただいてありがとうございました！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6062y/

バーサーカーのお助け物語　第一章　魔法先生ネギま！編

2011年11月22日01時16分発行